

日本文學史 試題

(限用答案本作答)

一、次の人名の読み方をひらがなで答えなさい。また、各人物が書いた作品の名を日本語で一つ答えなさい。(20%)

- | | | |
|--------|--------|---------|
| ①横光利一 | ②菅原孝標女 | ③紀貫之 |
| ④芥川龍之介 | ⑤十返舎一九 | ⑥武者小路実篤 |
| ⑦北村透谷 | ⑧滝沢馬琴 | ⑨大江健三郎 |
| ⑩小林多喜二 | | |

二、A. 次の和歌の成立順を答えなさい。(例：①→②→③) (2%)

B. 各々の和歌の意味、作者について説明しなさい。(12%)

- ①花の色はうつりにけりないたづらに我が身世にふるながめせしまに
- ②熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今はこぎ出でな
- ③春の夜の夢の浮橋とだえして峰に分かるる横雲の空

三、A. 次の文章の作品名と作者を答えなさい。(15%)

B. ①～③を現代日本語に直しなさい。(9%)

- ①ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。
- ②春はあけぼの。やうやう白くなり行く、山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲のほそくたなびきたる。夏はよる。月の頃はさらなり、やみもなほ、ほたるの多く飛びちがひたる。
- ③つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。
- ④石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓のほとりはいと静かにて、熾熱燈の光の晴れがましきも徒なり。今宵は夜毎にこゝに集ひ来る骨牌仲間も「ホテル」に宿りて、舟に残れるは余一人なれば。
- ⑤小説の主脳は人情なり、世態風俗これに次ぐ。人情とはいかなるものをいふや。曰く、人情とは人間の情慾にて、所謂百八煩惱是れなり。

四、九世紀に全盛期を迎えた漢詩文は十世紀に入って衰退し、同時に和歌は復活する。

このような現象は何故起こったか。その理由を説明しなさい。(7%)

五、平安時代に女流文学が栄えた理由について説明しなさい。(7%)

六、能と狂言の違いを内容、理念、文体などの観点から説明しなさい。(7%)

日本文學史 試題

(限用答案本作答)

- 七、近世の俳諧の流れを各俳風の特色、中心人物を明らかにする形で説明しなさい。
(7%)
- 八、言文一致運動は何故起こったのか。その理由と実現までの過程を説明しなさい。
(7%)
- 九、日本文学と中国文学の関連性について、具体例を挙げて説明しなさい。
(時代は特に問わない) (7%)

本試題係両面印刷

試題完